

農業施設貸与事業モデル集

兵庫で施設園芸

ひょうごの農に
夢をのせて

農業施設貸与事業モデル集

兵庫で施設園芸
ひょうごの農に夢をのせて

兵庫県担い手育成総合支援協議会

兵庫県

平成 28 年 3 月



兵庫県では「兵庫県地方創生戦略」及び「ひょうご農
林水産ビジョン2025」を策定し、意欲ある多様な農業
の担い手育成の取組みを進めています。
特に、新規学卒者から定年退職者まで幅広い世代の就
農や生産拡大等を促進し、地域農業の活性化を推進する
必要があります。

このため円滑な就農と地域への定着や農業法人の経営
発展および雇用創出、生産拡大を図るため、施設園芸に新
たに取組む農業者や規模拡大を目指す法人等の初期投資
の軽減を図るための農業施設貸与事業を創設しました。
この冊子では、兵庫県の多様な地域で、多様な農業者
が、この新事業を活用し、施設園芸で就農・経営拡大し、
それぞれの夢の実現を目指す輝く事例をご紹介します。
はいめませんか。

目次

多彩なひょうごの農林水産業	3
農業施設貸与事業とは	6
モデル事例	7
参考資料	37
・関連施策・資金 (認定新規就農者制度／農業施設貸与事業支援資金／青年等就農資金)	
・新聞記事	



多彩なひょうごの 農林水産業

本県は、「日本の縮図」と言われるように、南北を海に面し、多様な自然環境を有するとともに、ひょうご五国の多様な気候や風土に根ざした多彩な農林水産物が生産され、都市近郊の立地や食品関連産業の集積など兵庫の強みを活かした農林水産業が展開されています。



神戸・阪神地域

1 市街地やその周辺では、葉物野菜やトマトなどの野菜生産、農村部では、米、麦、大豆など土地利用型作物が生産されています。

2 神戸では、もも、ぶどう、かきなどの果樹や花きの生産、酪農が盛んであり、阪神では、いちじくなどの果樹、但馬牛肥育による「三田牛」、道の駅等で提供されているそばなど、地域の特産物が生産されています。

播磨地域

1 米、麦、だいち等の土地利用型作物やキャベツ等の野菜の生産が行われています。また、粘土質の土壌を活かした全国一の生産量を誇る酒米「山田錦」の生産が盛んです。

2 大規模な酪農経営体が多く、また、銘柄鶏「播州百日どり」、但馬牛肥育による「黒田庄和牛」、「加古川和牛」が生産されています。

3 明石海峡から播磨灘にかけて小型底びき網を中心とした漁船漁業が営まれており、タイ、タコ、イカナゴ等の魚介類を水揚げし、特に、ノリ養殖は県内生産量の5割近くを占めています。

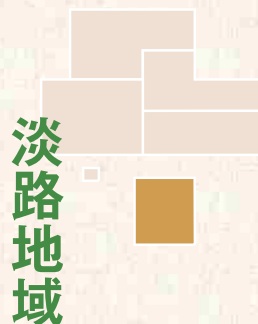
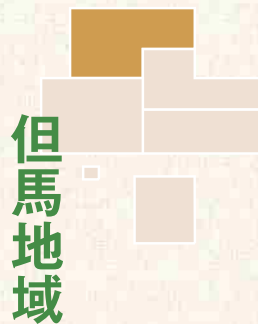
【西部地域】

1 大規模経営による鶏卵生産や但馬牛肥育による「PREMIUM姫路和牛」の生産が行われています。

2 北部では、黒大豆、もち大豆「夢さよう」等の特産物が生産され、南部では米・麦・大豆等の土地利用型作物や、干拓地でのにんじん、だいこん等の野菜生産、姫路市近郊では姫路れんこんや網干メロン等の伝統野菜が生産されています。

3 宍粟市にある兵庫木材センターを核として競争力のある県産木材を供給するとともに、未利用木材を木質バイオマス発電所へ燃料として供給しています。

4 播磨灘を中心とした海域では、小型底びき網、船びき網を中心とする漁船漁業と、ノリ、カキ、アサリ等の養殖業が盛んで、カキ養殖は、県内では当地域のみで行われています。



1 環境への負荷軽減に配慮した「コウノトリ育む農法」による米・だいずや冷涼な気候を生かしただいこん、キャベツ等の高原野菜、なし、岩津ねぎ、美方大納言小豆、朝倉さんしょ等の特産品が生産されています。

2 但馬牛の原産地として、世界に誇る「神戸ビーフ」の素牛となる但馬牛の繁殖・肥育が行われています。

3 高性能林業機械の導入等による、製材用原木等の低コスト生産が行われているほか、木質バイオマス発電所の燃料として未利用木材が供給されています。

4 日本海では、沖合底びき網漁を中心とした漁業経営が展開されており、ズワイガニやホタルイカ、ハタハタ、ベニズワイガニ等は、全国でも上位の水揚げを誇ります。

1 昼夜の寒暖差など地域特有の気候条件を活かし、丹波ブランドの特産物(黒大豆、大納言小豆、やまのいも、くり、茶など)が生産されています。

2 肉用牛、酪農、養鶏など多様な畜産経営が展開されており、特に篠山市では但馬牛の肥育が盛んで、「丹波篠山牛」が生産されています。

3 高性能林業機械の導入等による、製材用原木等の低コスト生産が行われているほか、木質バイオマス発電所の燃料として未利用木材が供給されています。

1 県下で最も農業生産の盛んな地域であり、年間を通じて温暖な気候を活かし、たまねぎ、レタス等の野菜と水稲との多毛作や、かんきつ類、いちじく等の果樹生産、カーネーション、きく等の花きが生産されています。

2 県内の生乳生産量の約4割を占める酪農経営や、県全体の飼養頭数の3分の1を占める但馬牛の繁殖や肥育経営など、畜産業の県下の主要な産地です。

3 小型底びき網や船びき網など多様な漁船漁業と、ノリ、ワカメ、淡路島3年トラフグ等の養殖業が営まれ、県下の漁業生産額の3分の1を占める主要な産地となっています。

農業施設貸与事業とは

新規就農者や農業法人等が施設園芸に取り組むときの初期投資の軽減や経営リスクの低減を行うために、JA等が園芸施設等を整備して貸与する経費に県が補助するものです。

JA、市町、県民局が連携して営農支援等も行います。

事業のしくみ

■事業実施主体

農業協同組合連合会、農業協同組合、市町等

■利用者

- (1) 県内居住の新規就農者
- (2) UJIターン者
- (3) 農業外からの参入企業
- (4) 農業法人
- (5) 施設園芸の生産の拡大又は新たに施設園芸に取り組む者

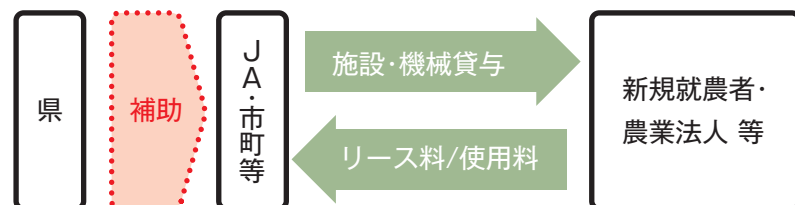
■補助率

(1)(2):1/2以内 (3)~(5):1/3以内

ただし、高度環境制御栽培施設及び補助対象事業費が1億円以上の施設は15/100以内

■対象施設

- (1) 園芸施設(ビニールハウス、ガラス室等で附帯設備を含む)
- (2) 施設と同時に導入する農機具、運搬用機器等



地域別実施状況(平成27年度)

神戸・阪神地域	                                          	13
播磨地域	                                          	31
但馬地域	                                          	14
丹波地域	                                          	6
淡路地域	                                          	4

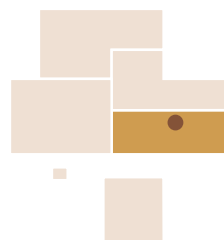


店頭に出すと即完売！ お客様目線のいちご作りが評判

良質の実が育つように
芽欠きも大事です。



藤本さんが丹精込めて育てた青果物は、目の前にある農産物直売所「大沢ファーマーズマーケット」で販売。この直売所は喜郎さんが運営を任されていて、地元生産者約20人の農産物を販売しています。鮮度抜群で美味しいと評判で、また道路沿いの角地、車で行きやすい立地も手伝い、他府県から多くの人が訪れるそう。そのため出した途端売り切れてしまい、いちごの生産が追いつかない状況が続いていたとか。そこで2015年、ハウスの拡張に向けて本格的な準備を始められました。



PROFILE

Fujimoto Kouji
藤本 耕司

所在地
兵庫県神戸市北区大沢町

経営規模
施設 3,400㎡ 露地 62.5a

品目
いちご(章姫、おいCベリー)、
スイートコーン、ぶどう、いちじく

就農年月日
平成13年10月1日



会社勤めから家業の農家へ

神戸市北区の「すまいるふぁーむ藤本」で代表を務める藤本耕司さん。以前は企業勤めをしていましたが、2001年、祖父が農業を引退することになり、藤本さんが代わって従事することになりました。現在は、藤本さんが施設栽培でいちごを、神戸アグリマイスターでもある父・喜郎さんがスイートコーン、いちじく、ぶどうなどを露地栽培しています。

貸与事業の利用で初期負担を軽減

新設するハウスは、露地栽培に利用している土地のうち12aに建てる、32・5m×35mの5連棟。天井は開閉式で、室内の温度、湿度、二酸化炭素濃度などを感知して自動調整する機器も導入し、生産効率のよいハウスが出来上がります。既存のハウスでは、人気品種でもある「章姫」を栽培しているほか、「おいCベリー」のように「章姫」とは違う品種を毎年最低でも1種、研究も兼ねて栽培されていますが、新設のハウスではこれらに加え、「紅ほっぺ」も栽培する予定だそうです。



収穫したばかりの「紅ほっぺ」

お客様目線のいちご作りをめざして

ハウスを拡張するのは、「これまで品薄で購入できなかったお客様にもおいしいいちごを届けたい」という増産目的に加え、「お客様の要望に応えるいちごを生産したい」という思いも込められているのだとか。例えば、見舞いの品として持っていくといった場合には、日持ちする品種が求められます。また、ケーキ職人の場合は、単に美味しければいいというものではなく、味、香り、水分量、大きさなど要望は細かくなります。購入者の用途に応じて、求められるいちごは異なるので、お客様の目線でいちごを作っていきたいですね」と、藤本さん。直売所で買った人たちが喜ぶ顔をイメージしながら、今後もますますいちご作りに邁進し続けます。



ハウス内では、育成促進のため炭酸ガスを施用

たが、タイミングよくこの事業を利用してきて、初期負担を軽減してスタートを切れるのありがたいことですね」と、藤本さんは話します。



収穫時に使う「収穫台車」

Advice & Planning



兵庫県神戸県民センター
神戸農業改良普及センター 経営課
普及主査 日岡千之

**担い手を育てる
若手リーダーとして期待**

藤本耕司さんは施設いちご、ぶどう、いちじくなどを自身が経営する直売所での販売に加え、スイートコーンの観光農業など家族で役割を分担しながら安定した収益をあげ、直売・観光による経営モデルとなっています。今回は氏が担当するいちごの規模拡大意向を受け、本事業を活用することとなりました。

これまでに、北神戸農業青年クラブの会長や兵庫県青年農業者などを歴任され、若手農業者のリーダーとして活躍され、ともに県農業大学校生や地域農業後継者の研修の受入も実施しておられ、地域農業後継者の育成にも貢献されています。

農業施設貸与事業を活用して増設したハウスで、より多くのリピーターに高品質ないちごを供給でき、更に、藤本さんの指導を受けた研修生が数多く地域の担い手として活躍されることを期待します。

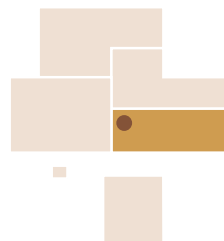


地域コミュニティに積極的に参加して 近隣住民や同業者から信頼を獲得

新たにチンゲンサイを栽培するため
師匠の畑で勉強させてもらってます



「JA直売所」などに出荷された
そうす。『よその生産者の農作物も
目の当たりにでき、次の生産に向けて
戦略を立てるヒントが得られました』
と久國さん。しかし初年度を振り返
り、露地栽培では、冬に収穫できる野
菜の種類が減るため、冬季も安定的に
収穫できるハウスの必要性を感じま
した。



PROFILE

Hisakuni Jiro
久國 二郎

所在地
兵庫県神戸市西区岩岡町

経営規模
施設 1,400㎡ 露地 40a

品目
いちじく

就農年月日
平成26年4月1日



確かな情報収集力で着実に就農

久國二郎さんが前職を辞めたのは、43歳のときのこと。その会
社で約20年間、製造から店舗運営全般を担っていましたが、将来
の自分を想像したとき、その会社で働いているイメージが湧か
なかったそうです。そこで、入社時から考えていた自営を実現し
ようと考え、その頃、メディアで紹介されていた農業の情報を収
集。兵庫楽農生活センターの楽農学校のほか、JA兵庫六甲の新
規就農塾1期生として、栽培技術や知識を修得されました。

その後、西区のベテラン農家、田中和広さんのもとで修業し、
2014年、満を持して「ひさくに農園」をスタート。初年度は
露地栽培のみで、いちじく、にら、なす、甘長とうがらし、南瓜な
ど約10種の野菜を手がけ、インショップ（大型スーパーに設け

地域とのつながりの大切さを実感

久國さんは就農1年目から、若手農家が集う青年部
会や地域のコミュニティなどに積極的に参加。地域
の祭りや農地周辺の清掃など地域活動を通して
て、コミュニケーションを図りました。

そうして、次第に周囲から気にかけて
もらえるようになり、農作業をしてい
ると声をかけてくれたり、新人農家で
もある久國さんにアドバイスをしに行っ
てくれることが増えたそうです。

「農業はひとりではできないものだ
とあらためて感じています」という久
國さん。現在は栽培技術だけでなく、農
家としてのあり方や今後の展開など、近
所にいる師匠のもとへ、日常的に教えを請う
ために足繁く訪ねているのだとか。

そんな久國さんの元にある日「高齢で辞めた元農
家の農地が貸し出される」という情報が。ハウスの必
要性について、日頃から師匠に相談していたことも

あり、師匠が貸主の所
へ一緒に行って頼ん
でくれることに。その
おかげもあって、農地
を借りて、ハウスの建
築に踏み切ることが
できました。

農業は商売人気質も大事

新設ハウスは、200平方メートルを7棟。農業施
設貸与事業を利用でき、リース期間は9年に設定さ
れました。「投資が少なければリターンも少な
いので、ある程度リスクは負うものと

思っって運営しています。投資のタイミ
ングも重要です。そういう意味で
は、農業には、商売人的な感覚も求めら
れます」と、久國さん。新設ハウスでは、
師匠と同じ、チンゲンサイを栽培予定
です。初年度から黒字続きですが、さら
に売上げを伸ばすための勝負どころと
捉えているのだそう。農作物は出荷し
ただけ収益になることから、新鮮なも
のを届けられる市街地に近い立地と、量産で
きるスケールメリットを生かして意欲的に増収を目
指されています。



収穫したての新鮮なチンゲンサイ



露地やハウスの土を耕すトラクター



この秋には久國さんの新設ハウスも
チンゲンサイ色に

Advice & Planning

ハウス建設に 貸与事業を提案

主に販売や生産資材などのご相談
にお応えしています。今回は、久國さ
んがハウスを建てたいというイメー
ジが具体的でしたので、農業施設貸
与事業を提案しました。久國さんは、
青年部会や営農組合などに積極的に
参加していらつしやるだけでなく、
営農組合では代表といった役回りも
引き受けていらつしやいます。異業
種からの就農でしたが、日常的に近
隣との関わり方、農家同士のつなが
りなど、さまざまなコミュニケー
ションを大事にして、早い時点で地
域に馴染みました。面倒見のいい師
匠のもとで修業されたことも、久國
さんの誠実さが伝わる日々の取り組
みも農地の貸借にいい影響をもたら
したのではないのでしょうか。

新規就農者は農作物を作るのに精
一杯になりがちですが、どう販売す
るか具体的なイメージをもって生産
することも大事ですね。



JA兵庫六甲
岩岡支店
坂田裕樹



地に足を付けて、新品目で “儲ける農家”を目指す

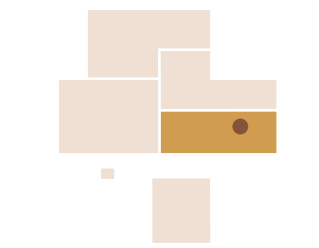
メロンの苗の定植に向けて
土を作っていきます。



三田に戻った2014年、西中さんがまず取り組んだのは、就農前に兵庫楽農生活センターや農業大学の研修などで知識や経験を積むこと。以前から祖父や父の手伝いをする中で、これからの農業には理論や開発力も必要だと感じていたそうです。また就農後も、父を師と仰ぎ、農家としての経験値を重ねています。

祖父は専業農家、父は兼業農家という家に生まれ育った西中克仁さんは、2015年に就農。前職の勤務先は、神戸市北区・有馬のホテルです。16年間勤務したうち、退職前の7年間はホテル運営の中枢を担う経営戦略を担い、仕事に誇りとやりがいを感じていたそう。しかしそんな折、祖父が他界し、父が「農業は自分の代で終わるやな……」とぼつりと漏らしたそう。その一言が、西中さんの心にひっきりかり、考え抜いた末、祖父に代わって農業に従事することを決心。有馬から実家の三田へ戻って来られました。

※家業を継ぐためにUターン



PROFILE	
Hishinaka	Katuhito
西中 克仁	
所在地 兵庫県三田市加茂	
経営規模 施設 150㎡ 露地 239.4a	
品目 メロン(アンデスメロン)、原木しいたけ、レタス、こまつななどの軟弱野菜、米、黒大豆、やまのいもなど	
就農年月日 平成27年4月1日	



※新品目の栽培に着手

西中さんは就農後すぐに、経営戦略を立てるため、家業の規模を確認。まず、水稻が約244a、界限の高齢で引退した農家から管理を任されてオペレーターを担っている農地が約142a、黒大豆約6a、やまのいも約2a、露地野菜約1・8a、施設栽培は新設の2棟を加えて1・5aとなり、栽培面積は合計約500aに及んでいました。しかし、父がもともと兼業農家だったことから、自家消費の延長線上にあり、販売は朝市やJA直販店に米を出荷する程度に留まっていた。



原木しいたけ、レタス、こまつななども栽培

※農業の新たなビジネスモデル構築を

現在新設したハウスでは、育苗したメロンの苗を定植できる時季が来るまでの間、地ならしも兼ねて軟弱野菜を栽培しています。

「定植できない時期にハウスを遊ばせておくのはもったいないので、いかに効率よく稼働させるかも、農業経営において大事だと考えています。メロン栽培が軌道に乗れば、次年から、7月と12月に出荷できるようにしていきます」と、メロン栽培への意気込みを語ります。また西中さんには、自ら農作物の価値を高めるビジネスモデルを確立し、農業は工夫次第で将来性のある業種であることを就農希望者に伝えたいという思いも。「高齢化に伴って耕作放棄地が増加しています。高年齢化に伴って耕作放棄地が増加している、三田の農業の発展に貢献したいですね」と熱く語っています。



貸与事業で購入した動噴機

「地」に足を付けた、儲ける農家を目指して情熱を燃やしています。それを母と妻は主に出荷面でサポート、田畑での農作業は父と二人三脚で行っています。



定植間近の、育苗したメロンの苗

将来性を持つ メロン栽培に期待

農家のみなさんのもとを訪ねて、今後の事業展開の相談などをうかがっています。西中さんは、JA主催の食育・食農の出前授業にも協力いただきました。メロン栽培に関しては、前年の試験栽培に手応えを感じ、本格的にメロン栽培に取り組みたいという相談がありましたので、貸与事業をご案内しました。競争率は約3倍でしたが、無事に審査に通り、リース期間は9年に設定しました。

主に市や県など、多種多様な農業支援事業の情報を扱っています。西中さんのメロン栽培計画に合う補助金や制度を検討し、地域担当の飯田にフィードバックしました。西中さんは前職で経営戦略に携わっていただけに、事業計画等も単なる理想ではなく、実現性の高い内容でした。三田の新名物になる可能性を秘めたメロンの栽培に期待しています。

Advice & Planning



JA兵庫六甲 三田営農総合センター 営農相談員 石井玄貴
JA兵庫六甲 三田営農総合センター 営農相談員 飯田崇甲

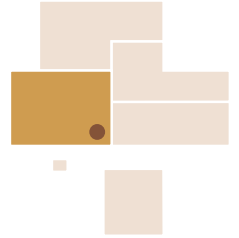


徹底したマーケティングと職人気質で おいしいと評判のいちごを計画的に生産

不要なランナーをこまめに
取り除くのも大事な仕事のひとつです。



家具デザイナー・家具職人として神戸市でオーダーメイド家具工房を自営していた山口堅司さんが、加古郡稲美町へ移住したのは2011年のこと。手狭になった家具工房の拡張を考えた際、かつて稲美町で祖父母が所有していた空き牛舎を使わせてもらえることになり、稲美町へ行くことになったそうです。するとその頃、稲美町で父が、家族で食べる程度の米を栽培していたこともあって、おのずと農業とふれあう機会ができるように。そして次第にオーダーメイド家具職人を続けながら、農業に着手したいと考えるようになったそうです。そこで山口さんはまず、「農業は未開の分野だけに本格的な勉強が必要」と考え、加西市にある兵庫県立農業大学校新規就農実践農場研修で1年間学ぶことに。「実習では葉物野菜、果実、花などさまざまな農作物を栽培をしました。自分が育てたい品目や自身の適性など見極めるのに、とても役立ちましたね」と話します。



PROFILE

Yamaguchi Kenji
山口 堅司

所在地
兵庫県加古郡稲美町加古

経営規模
施設 4,500㎡ 露地 20a

品目
いちご
(章姫、おいCベリー、
紅ほっぺ、やよいひめ)、
ブルーベリー

就農年月日
平成24年8月1日



❖ 高品質いちごによる戦略的経営

研修終了後山口さんは開業準備としてマーケティングを徹底。販路、近隣の競合、売れる品目など、さまざまな側面で野菜市場を把握し、分析されました。労働力が1人であることもあって、栽培品目をトマトかいちごで迷った結果、最終的にいちごを選択。自己資金は、開業後、採算がとれなかった場合に備えて1年半の生活費と運転資金の一部を準備し、住居費は祖母の家に住むことで出費を抑えました。土地や設備等の費用は手堅い生産計画で融資審査を無事に通過。そしてハウスが完成し、2012年に「デリシヤスラボ プレイ」を開園しました。



間もなく出荷時期を迎えるいちご

❖ 展示会で取引申込みが多数。 規模拡張へ

山口さんのいちごは、東はりま若手農業経営研究会として2015年2月開催の「アグリフーDEXPO大阪2015」にも出展されました。その際品質を高く評価され、百貨店など複数の優良企業から新規取引を申し込まれることに。しかし、15aでは生産量が足りないため、すぐに契約を結ばないといいました。そこでハウスの拡張を検討し、7棟3000㎡を新設して、出荷量を3倍に増やすことに。建築費、自身で考案した高設栽培の設備費などもあり、総費用は4000万円に及びます。JAが施設を整備・所有し、県から2分の1の補助を受けてリースする農業施設貸与事業を活用。年間約300万円をリース料として7年間JAに支払います。制度を利用でき、規模拡大に安心して着手できました」と、新たな一歩を踏み出す山口さん。



独自の比率で配合した土を使用する

2016年現在、栽培しているのは4品種。酸味が少なくジューシーな「章姫」^{あきひめ}、果肉も美しい紅色をした甘酸っぱい「紅ほっぺ」、光沢がある濃い赤色でビタミンCが多い「おいCベリー」「まろやかな甘みが特徴の「やよいひめ」です。新築ハウスでは、これらに加え、上品な香りと爽やかな味わいが特徴の「かおりの」も栽培予定。毎年1つは新品種に取り組み、栽培方法の研究をされています。



完成間近のハウス

将来、稲美町が活気づくようアグリツーリズムへの挑戦も考えているそうです。

Advice & Planning



兵庫県東播磨県民局
加古川農業改良普及センター 経営課
普及主査 木村 亨

山口さんの初年度は、いちごの植え付けに適した9月中旬から下旬にハウスの竣工が間に合わず、11月に実施しました。見込みよりも収穫量は大幅に減りましたが、2作目から黒字経営を持続していて、経営センスに長けていると感じています。また、山口さんが一番好きな「やよいひめ」は、他の3品種よりも栽培が容易ではないため、通常は経験値の低い農家には品種の変更を促しますが、山口さんは研究熱心で職人気質なうえにリスクを見据えた生産計画を実行できることから何も言わず見守っています。そして、就農から3年で規模を3倍に拡張したいという申し出は、通常なら考え直すように促しますが、初年度から経営状況を見てきて山口さんの場合は大丈夫だと確信し、今回の施設拡張に適した事業を提案しました。

経営手腕を見込み、 拡張を支援



“笑顔になるトマトを届けたい”という 一途な思いが探究心をかきたてる

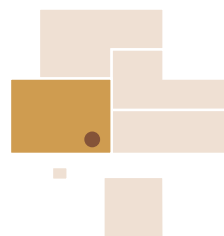
おいしいトマトに育つよう
環境整備をすることも大切です。



「50年先、100年先、子どもや孫の代になってもおいしいトマトを作り続けられるよう、生産技術や生態を徹底して追究していきたいです」と、高見さんは話します。

次代を見据えた農業を

加古川市で高見農園を営む高見さんは、生産者であり、15人のパート従業員を雇う事業者でもあります。おもな事業としては、ミディトマト「フルティカ」や大玉トマト「桃太郎ファイト」といったトマトを通年出荷。甘みも旨みも濃厚でジューシー、それでいて食感もよく、野菜嫌いな幼い子も好んで食すほど、好評を博しているそうです。このように評判の高いトマトを安定供給しているものの、高見さんは、「もっと探究すれば、さらにおいしくなるはず」と、現状に甘んじることなく、日々研究に余念がありません。同世代の農家が集う研究会にも熱心に参加し、いままで当たり前だった生産方法を根本的に見直し、理論的に解釈するといった農業生態学の観点の研究を深めているのだとか。



PROFILE

Takami Yasushi
高見 泰

所在地
兵庫県加古川市上荘町

経営規模
施設 2,800㎡ 露地 10a

品目
トマト
(フルティカ、桃太郎ファイトとまと)、
ほうれんそう

就農年月日
平成22年7月1日



念願の独立。料理人から農家へ

和食の料理人から農業へ転職した高見さん。料理人だった頃は給料制で、将来の目標は独立開業でした。定年退職した父が始めた菜園で栽培された野菜の採れたての美味しさに感動し、店を持つなら、父が手塩にかけて育てた野菜を使う和食店にしようと考えていたとか。ですが、外食産業が伸び悩み傾向にある時代背景から、飲食業界での独立を考えていたが、休暇の折に父の農園を手伝ううちに農業の奥深さに惹かれ始め、転身を考えるように。そして、妻の理解を得て退職に至りました。



「フルティカ」が実る様子

創意工夫で味わい深いトマトを生産

近所に農産物直売所がオープンし、農業で生計が立てられると考えた高見さんでしたが、いざ独立に向けて始動すると、農地と施設の取得、資金調達などいくつかのハードルがあったそう。それを、農業改良普及センターのアドバイスを受けて一つひとつクリアし、2010年に念願の独立を果たしました。職人気質で学究肌の高見さんは、ハウスは日々創意工夫。例えば、栽培に適した室温や水温、CO₂の量、湿度のデータを測定・分析するために管理システムを設置。室内の温度を均一にするため温風を送り込むダクトは、研究を重ね高見さん自身が作ったものだから、畝間にモミ殻を敷きつめ、適度に保湿するほか、膝を落として収穫するときに膝を痛めないようにクッションの役割を担っています。



温度、炭素、水温などを管理する
独自システム

「それぞれの研修先から教わったことは、技術面に加え、農家としてどうあるべきかです。志の高さに深く感銘を受けました。もっと早く農業研修を受ければよかったと思います」と、高見さんは研修当時を思い返します。



新設したハウスの外観

「それだけの研修先から教わったことは、技術面に加え、農家としてどうあるべきかです。志の高さに深く感銘を受けました。もっと早く農業研修を受ければよかったと思います」と、高見さんは研修当時を思い返します。

Advice & Planning



兵庫県東播磨県民局
加古川農業改良普及センター 経営課
普及主査 木村 亨

無理のない資金調達を助言
年間の生産計画や貸付・補助金申請の検討・助言、研修や研究会の案内などを行っています。高見さんは異業種からの転職で、ハウスの建築費など初期費用が大きく、借入れ返済のため、新しいハウスの拡張には慎重にならざるを得ませんでした。今回は、農業施設貸与事業を活用し、設備資金が不足しないように高見さんは持ち前の研究・開発力でカバーしています。また、栽培品目のトマトは通年出荷できる利点がある一方、競合も多い品目ですが、学究肌の高見さんの独自性をうまく生かして一定のファンを掴んでいます。高見農園のラベルの写真になっています。高見農園の赤ちゃんは、高見さんのお子さんで、赤ちゃんの口に入っても安全で、美味しいものを作っていくという、日々使命感をもって取り組んでいるのもいいですね。



サラリーマンから専業農家へ 農業大学の研修を経て、 トマト栽培に打ち込む

微生物資材を使って土を改良。
減農薬のおいしいトマトを作りたい。

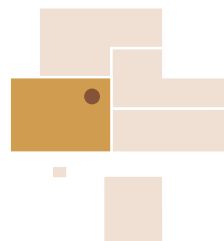


卒業後の平成26年11月に専業農家になり、引き続き父を手伝いながら、父から譲り受け土地で、たまねぎやニンニク、季節野菜などを作っていました。農業大学校で研修し、自身も大好きだというトマト栽培をするため、補助金などを調べていたところ、農業施設貸与事業について知りました。

な野菜を作って経験を積みました。

20代後半で農家へと一念発起

吉仲康二さんはかつてサラリーマンでした。外で体を動かすことが好きだったことから、実家の多可郡多可町で山田錦ともち米、黒大豆をメインに栽培している父の仕事を手伝っていました。農家の現実を肌で感じているからでしょうか、今の時代は兼業農家は厳しく、農業をするなら思い切って仕事を辞めて専業で大きくしていかなければならないと実感。農家になることを躊躇していました。しかし、事務よりも青空の下で汗をかく仕事がしたいという思いが20代後半になってますます募り、平成25年3月に県の就農希望者向けセミナー・相談会に参加し、研修や補助があることを知って新規就農を決意。会社を辞めて平成25年9月から1年間、加西市の兵庫県立農業大学校へ通い、実践研修でさまざまな野菜を作って経験を積みました。



PROFILE

Yoshinaka Kouji
吉仲 康二

所在地
兵庫県多可郡多可町中区

経営規模
施設 1,080㎡ 露地 25a

品目
トマト

就農年月日
平成26年11月1日



データや友人が経験値を補う

事業を利用して建てたハウスでは、甘味がありメジャーな桃太郎ファイトを栽培しています。平成27年3月に植え5月に収穫した1作目は、糖度が6〜7度あり成功しましたが、9月に植えた2作目は味がのらず空洞果して失敗。収穫できませんでした。「ベテランは経験があつてのカン。自分のカンだけでは成功しない」と痛切に思い、パソコンを使ってハウス内の気温や照度、湿度などの細かなデータを重視するようになりました。

さらに、近隣にトマト部会がないため、兵庫県の同年代のネットワーカーや農業大学の先輩・後輩、そのつながりからデータや教えを請うようにし、足りない経験を補っています。



3作目は1300株の桃太郎ファイトを生育

まずは土づくりから

県の事業を利用したハウスだからこそ、成功しなければとプレッシャーが強い反面、仕事への気合いにもなっているとか。とくに土づくりに力を入れ、実家で採れるモミ殻を利用して、米ヌカや油かす、微生物資材などを混ぜ20日ごとに切り返し、約2ヶ月かけてオリジナルのモミ殻堆肥を作っているそう。栽培中は谷に敷きつめて次のとき土の中にすきこみます。モミ殻の排水の良さと土の中の酸素補給、微生物による連作障害の軽減などの効果を期待しています。加えて自家製のボカシなど有機肥料を導入することで、化学肥料を減らし、トマトの旨味のアップも狙いたいと考えています。

5年後の安定生産を目標に、モミ殻堆肥のように今はいろいろと試したいと意気込んでいます。



菌・微生物を加えたオリジナルのモミ殻堆肥

そして彼らの存在は、自身のモチベーションの維持にもつながっているそうです。



環境制御装置でハウス内の環境を把握

就農計画の作成を支援

はじめて普及センターに就農相談にこられたのが平成25年3月、その足で農業大学の実践研修を申し込まれ、1年間の研修を経て、希望どおり就農されました。

就農計画は、町役場やJA職員も入ってもらって、一緒に考え作成しました。また、同じ集落の先輩農家に親方としていろいろアドバイスをもらえたり、周囲の応援体制にはかなり恵まれていると思います。その分期待も大きいので、吉仲さんにとっては重圧に感じることもあると思います。

経営の柱として選択した「トマト」は、どんな作物もそうですが、特に作る人の人となりや作物に現れると思います。2作目の失敗は苦しいけれどいい経験だったと思います。トマト作りは奥が深いです。難しいけれどおもしろいトマト作りをこれから極めてください。応援しています。



兵庫県北播磨県民局
加西農業改良普及センター 地域課
普及主査 増田 薫

Advice & Planning



綿密な年間計画で、若い女性1人でも 少量多品目の葉物野菜の生産・出荷を実現

地道な作業が多いですが、
やりがいを感じています。



「番組を見るまでは、農業は年配の方が携わっているものだと思っていました。若くても農業の世界で道が開ける可能性があることを知り、進路の選択肢に農業を加えました」と、田村さんは当時を振り返ります。

もちろん田村さんは農業は未経験。米農家だった祖父の田植えを手伝ったことはありますが、家業ではないため、受け継ぐ田畑もハウスもなく、本格的に従事したことはありませんでした。そこで田村さんは高校卒業後、伝統野菜の網干メロンの生産者として名高い、開発農園の開発明弘さんのもとへ。栽培技術から農業経営まで、広く学ぶことになりました。



PROFILE

Tamura Yayoi
田村 弥生

所在地
兵庫県姫路市網干区坂出

経営規模
施設 1,400㎡ 露地 20a

品目
菊菜、チンゲンサイ、水菜、ほうれんそう、こまつな、はくさい、キャベツ、なす、トマト、きゅうり、網干メロンなど

就農年月日
平成25年4月1日



❖ 若い農家の活躍を知り、農業の道へ

姫路市網干区の田村弥生さんは、休日にはドライブとショッピングを楽しむ23歳。休日の過ごし方だけを聞くと都心部のOLと変わらないですが、実は21歳で独立した農業経営者です。きっかけは、高校2年のときに見たテレビ番組。その番組を通じて、20代の農家が活躍する様子を知り、衝撃を受けたそう。

「番組を見るまでは、農業は年配の方が携わっているものだと思っていました。若くても農業の世界で道が開ける可能性があることを知り、進路の選択肢に農業を加えました」と、田村さんは当時を振り返ります。

もちろん田村さんは農業は未経験。米農家だった祖父の田植えを手伝ったことはありますが、家業ではない

❖ 空きハウスと支援制度で独立

修業開始から3年、無我夢中で農作物と向き合ってきた田村さんのもとに、借り手を探している空きハウスの情報が舞い込んできます。網干地区で空きハウスが出回ること自体滅多にないうえに、築1年ほどの比較的新しい物件というのは、将来的には独立を目標としていた田村さんにとって魅力的な話でした。その一方、労働力が1人でも運営できるのか、資金繰りや事業計画などの不安要素も。ですが、農業改良普及センターへ相談すると、やり方次第で問題点が解決できると知り、田村さんは覚悟を決めたそうです。



出荷直前の菊菜

営に導入できました。このように各種施策を活用することにより、就農の初期段階から大きな借金を抱えることなく農業に専念できる環境が整えられています。

田村さんが取り組む栽培品目は、葉物野菜が中心に約10品目。兵庫県南部に位置する網干地区の安定した温暖な気候にも合っており、30日から45日で出荷できることから、資金化できるサイクルが短い点も、葉物野菜に着目したポイントとなったそうです。

❖ 網干地区の “農業改革者”になりたい

「地道な作業が多く、気を抜けない仕事ですが、だからこそ面白さを感じています」と田村さん。独立して2年が過ぎ、いかに効率よく出荷できるか、綿密な年間生産計画が大きな意味を持つことを実感しています。計画を忠実に実行するのは容易ではありませんが、ハウスと露地の栽培をどう稼働させるかを工夫するのも面白さにつながっているのだとか。



土を耕すための管理機

農地を所有していない新規就農者の場合、農地の取得費やハウスの建築・設備費など、初期費用が大きくなります。田村さんの場合は、総費用の約2分の1の助成を受けられる農業施設貸与事業によってハウスをリースすることになりました。この事業は、JAが整備したハウスを利用者（田村さん）が利用料（リース料金）を支払って自身の農業経営に取り入れる点に特徴があります。また、JA兵庫県信連の融資を受けることにより自己負担分の利子を軽減できるために、より負担が少なくハウスを経

営に導入できました。このように各種施策を活用することにより、就農の初期段階から大きな借金を抱えることなく農業に専念できる環境が整えられています。



リースしているハウス

Advice & Planning

技術面と資金面の 2方向から支援

就農者に技術向上などに関する情報提供やアドバイスをしています。田村さんのように若い農家が馴染みのない地域で独立される場合、近隣の住民や同業者とのコミュニケーションも必要です。技術向上や経営、地域への溶け込み方などのヒントが得られると思い、若手農家が集う研究会への参加を勧めました。田村さんも参加して研鑽を積んでいるようです。

就農支援の担当として補助事業、制度資金等の窓口となり、情報提供や各種の手続きを行っています。

新規就農者を支援する事業として新設された農業施設貸与事業は、2分の1補助という他の補助事業にはない補助率の高さで、自己資金の少ない新規就農者にとってはありがたいことから、田村さんにはこの事業の活用を勧めました。



兵庫県中播磨県民センター
姫路農業改良普及センター
地域課
担当課長補佐 井澤嘉隆

兵庫県中播磨県民センター
姫路農林水産振興事務所
農政振興課
臨時職員 渡邊美谷



いちご栽培ひと筋 佐用町の新しい特産品として 地元へ新風をもたらしたい

子どもたちがもぎたてのいちごを
食べた時の笑顔が一番うれしい。



兵庫県南西部、岡山県に隣接する佐用町で平成27年に高設いちご栽培を始めた田邊農園の田邊貴之さん。兵庫県立農業高等学校で野菜栽培を学び、赤穂郡上郡町の兵庫ファームへ入社後、いちご栽培をメインに約9年近く就労してから地元で独立をしました。

独立にあたって資金面等で光都農業改良普及センターに相談したところ、タイミング良く今回の農業施設貸与事業を知りました。就農計画の資料作成を中心にセンターよりさまざまなフォローを受け、平成27年1月より農業経営を開始し、同年2月に独立就農。3月には無事に就農計画の認定を受けました。ハウスや装置などの設営にあたって業者を紹介してもらったほか、同じシステムを同時期に始めた別のいちご栽培農家と県内外の施設見学し、今も情報交換や勉強会もしているそうです。

そして、自己資金で育苗ハウス2棟計300㎡を設営後、事業を活用して田邊さんがひとりで栽培できる最大敷地面積に近い7.2m×65mのハウス3棟計1404㎡を7月に着工し、8月下旬に完成。9月に植えた「章姫」と「紅ほっぺ」の1作目は、大ぶりの赤くジュシーな実が鈴なりに育ち、11月下旬より収穫がスタート。5月末までの収穫終了を目標に尽力しています。

雇用就農から独立就農へ

Tanabe

Takayuki

田邊 貴之

所在地
兵庫県佐用郡佐用町横坂

経営規模
施設 1,700㎡

品目
いちご

就農年月日
平成27年2月26日

高設と各装置の導入で作業が楽に

定植は就労していた時のプランターから、灌水と培地加温の両装置を備えた高設栽培となり、就労時に比べて立ったまま楽に作業ができるうえ、管理も簡易になったそうです。とくに培地加温装置は、配管を巡る湯を通してダイレクトに土を温めることができるので生育の反応が早く地温や生育が安定し、新システムを取り入れて良かったと感じています。さらに、循環扇設備と換気装置なども導入して温度や時間により自動化することで、朝4時に摘んだ瑞々しいいちごを、ハウスを一時離れて田邊さん自身で午前中に配送することも可能になりました。直接、店舗の方やお客さまと話す機会を得て、品種の説明ができたり、逆に消費者のニーズも聞けることもメリットだそうです。



温度や湿度、空気の流れを自動で管理

いちご栽培で一本立ちを目指す

今後は3年をめどに、農業経営をひとりで安定させることが目標です。収穫量はもちろん、糖度は14度平均と味わいにもこだわります。生で直接実を食べるいちごだけに化学農薬を極力減らせるよう、次回には天敵を利用した農法も取り入れる予定だとか。情報交換のため、地元の農家にとどまらず、他エリアのいちご栽培農家とも交流。販路でも営農指導員の豊永さんの紹介以外に、小売店やレストランなど独自に広げたいと考えています。

農業以外にも佐用高校の生徒に自身のいちご栽培の経験を伝える臨時講師を務めたそうですが、今後も地元と若い利点を活かしていちごの観光農園に取り組むことも夢だそうです。



大粒の章姫は身が締まり甘い果汁が滴ります

気になり別途購入したという苦い経験も今季にはありました。もともといちごは病気や害虫に弱い繊細な品目ですが、今まで栽培してきた土地との環境の違いも強く実感し、来年度以降に備えて温度などのデータをしっかりと取るようになりました。



高設栽培では空気の層を根元に入れていきます

Advice & Planning



JA兵庫西
佐用営農生活センター 係長
営農指導員(TAC) 豊永雅典

設営や販路でサポート

今回の支援では、主にハウス設営業者の紹介や事業の申請手続き等でお手伝いをさせていただきました。

栽培のノウハウについては、佐用町でいちご栽培をしている人は以前にはいなかったため、長年いちご栽培をメインに就労してきた田邊さんの方がむしろ詳しいくらいです。情報はできるだけ伝えていくつもりですが、田邊さんにも町のいちご栽培の第一人者として頑張ってもらいたいと思っています。

今後は主に販路のアドバイザーとして寄り添っていきたいですね。今はJA兵庫西管内の旬彩蔵・野菜市で、朝採れの新鮮ないちごを出荷してもらっていますが、それらが売れるようポップの工夫のほか、販路自体も市場やスーパーなど幅広く拡大していきたいです。

同時に西播磨の施設野菜の経営モデルとして、今後も支援していきたいと考えます。



ハウス栽培で通年雇用者を確保 さらなる躍進を図る農業生産法人

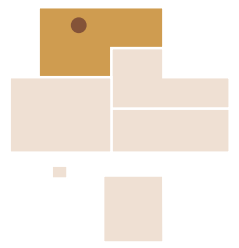
話題のハーブや洋野菜なども栽培していきたいですね。



神鍋高原のある豊岡市日高町は火山灰を含んだ柔らかな黒ボク土と昼夜の温度差のある気候で野菜の生育に向いています。しかしながら近年、地元で農家の担い手が減って耕作放棄地が増加。そのことを憂いた建設業を営む株式会社巴建設の代表取締役・新免将さんと有会社田村土建の専務取締役・田村寛さんが、建設で培ったノウハウを活かして農地を再生と同時に、農業という建設以外の雇用を生み、地域経済を活性化させたいと7年前にスタートさせた農業生産法人が、株式会社Teamsです。

コンセプトは「地域の循環」。豊岡で栽培した農作物を、神戸や姫路などの都会に持って行って食べてもらい、ホテルやレストランの食品残渣を神戸の産廃業者で乳酸菌入りの液肥にしてもらい、豊岡の土に混ぜ込んで再活用。地元特産の但馬牛の畜産家と連携し堆肥を作るなど、地域のエコサイクルで、環境保全や共存共栄にも力を注いでいます。

現在はお二人のほかに、常時雇用者9名、季節雇用者を含むパート10



PROFILE

(株)Teams

所在地
兵庫県豊岡市日高町

経営規模
施設 1,000㎡ 露地 130a

品目
軟弱野菜、ズッキーニ、トマト

設立年月日
平成21年6月17日



建設業者が始めた異色の農家

名が働く大規模法人に成長し、水稲をはじめ、にんじん、キャベツ、じゃがいもなど多数の野菜を栽培しています。とくにたまねぎやトマトなど野菜11品目はひょうご安心ブランド認証も取得。農業を減らした安全・安心な生産に取り組み自社ブランド「楽農や」を発足し、ホームページなどで栽培状況を公開しています。

事業最大級のハウス6棟を建設

通年雇用を増やし、農業法人としてのさらなる成長を計画していますが、冬場は雪の下で育つにんじんなどがあるものの、露地栽培だけでは全体の生産は下がるのがネックでした。その問題を打破すべくハウス栽培の拡張を思案していた時に、JAたじまの稲葉係長から農業施設貸与事業の話が舞い込んできたそうです。ハウスは今回の事業最大級の6棟（1528㎡）を増設。ズッキーニやトマト、からし菜などの葉物野菜を中心に栽培し、6月中旬以降にJAへの出荷を予定しています。葉



新鮮さを大切に葉物野菜は午前中に出荷

農業の新しいカタチにも期待

今回新しく建設するハウスは、近くの水路から水の確保はできますが、もともとは水田のため、畑への土壌改良が今後の課題だと言います。「1年目2年目はもともとある土の力で上手く栽培ができるのですが、土の力がなくなる3年目ぐらいから不作になりがち。土の状態を把握し、堆肥を入れるなど改善していきたい」と取締役の田村さんも語ります。

株式会社Teamsは、建設業や飲食店、団体職員など他業種出身の20〜40歳代の若手を中心のため、農業技術はまだまだ未熟ながら、ハウスの建設や耕作放棄地の再生、書類作り、営業など、従来の農家が苦手とする分野が得意で発想も柔軟なのが強み。ハウス拡張にともなう会社の発展で、農産物の生産にとどまらず、地元加工業者と連携した商品作り、企業や学生の研修受け入れ、農村塾の開校など、同社ならではの農業の新しいカタチにも期待が寄せられています。



ごちそう野菜でPRする「楽農や」ブランド

物野菜は約5年間取り組んできたワサビ菜に加え、当事業をきっかけに、イタリアンパセリやセルパチコ、カーボロネ口などのハーブや西洋野菜といった品目にも新たに挑戦し、安定供給や特産化を目指して試作を始めています。



青々と育つ自慢のからし菜

Advice & Planning

農地拡張で土を休ませる余裕も

今回の農業施設貸与事業はハウスで作るものであれば作物の制限がなく、柔軟な思考を持つTeamsさんに合っていると思いをかけさせていただきました。栽培予定の品目に葉物野菜を加え、ハーブや洋野菜の育成にも取り組み、地元のレストランチェーンなどへの出荷も考えられるなど目のつけどころもさすが。今後の成長が楽しみです。

地域内流通に取り組むなど地域に根ざしながら成長をしている法人です。今回の農業施設貸与事業でハウス栽培の面積が大幅に増えたことで、夏にはハウス内の土を休ませて太陽熱土壌消毒もできるようになります。来年度はハーブ栽培用にベレットボイラーも取り入れるそうで、より上手く土地をまわせるよう、技術的なアドバイスや情報の提供をこれからも続けたいと思っています。今回を機にさらなるステップアップにも注目しています。



JAたじま 営農生産部 営農企画課 係長兼営農指導員 稲葉博通

兵庫県但馬県民局 豊岡農業改良普及センター 経営課長 稲葉博通



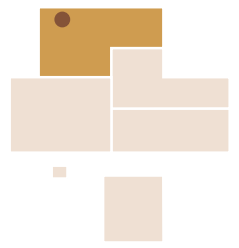
安定性のある グラウンドカバー 1 本に絞り 夫婦で新規就農

グラウンドカバーを専門に
夫婦ふたりで頑張っています。



冬に日本海の荒波が打ち寄せ、身を切るような北風が吹きすさぶ兵庫県の最北西端の旧浜坂町。「浜坂は寒さや風は厳しいですが、実家の旧温泉町より積雪が少なく農業に適しています」と語るのは、この地で平成25年4月に新規就農をした福井大悟さんです。

福井さんは水稲を中心に生産している農家出身で、地元の農業高校、園芸専門学校を卒業後、20歳で農業生産会社に就職し、約7年間、野菜作りの仕事を主に従事していました。独立にあたって興味を寄せたのがグラウンドカバー。地表や壁を覆う植物で、公園やビルの屋上などの緑化に欠かせません。実は新温泉町では専門農家がいるメジャーな品目で、福井さんも「取引先がはっきりした契約生産だから、安心して取り組みやすい」と、グラウンドカバー1本に専念すべく、仕事を辞めて平成24年に1年間の研修を受け、平成25年4月に独立。現在はリュウノヒゲやヘデラ類など約15種類の植物を、奥さまの好美さんと二人三脚で生産しています。



PROFILE

Fukui Daigo

福井 大悟

所在地

兵庫県美方郡新温泉町清富

経営規模

施設 480㎡ 露地 30a

品目

グラウンドカバープランツ

就農年月日

平成25年4月1日



❖ 頑丈なハウスで冬季も安定出荷

ビニールハウスは、グラウンドカバーの栽培に大きなメリットをもたらします。天候に左右されずに作業できるうえ、公共事業が多く発注も増える冬場に、安定して出荷ができるからです。福井さんも以前にビニールハウスを持っていました。が、弱々しく狭いものでした。頑丈な新しいハウスをと考えていましたが、資金的に厳しく断念していたところ、農業改良普及センターより農業施設貸与事業の話聞き、平成27年10月に長さ40m×幅6mのハウス2棟（計480㎡）が完成しました。



農地に湧く水を水源に使っています

❖ 難しい品種に挑戦し特注を狙う

ハウスの中で夫婦が枯れた葉をもくもくと取る作業中に、突然メールの受信音が響きました。グラウンドカバーの受注は大阪の卸会社からメールで届き、スマートフォンで内容をチェックするそうです。なんとも新鮮でした。卸会社からの注文を受けるだけでなく、福井さん側からも作っている種類や数を知らせたり、珍しい品種は写真を添付することでPRをし、福井園芸だからできる特注をとっていききたいと計画中です。

奥さまの好美さんは夫婦で就農するまではスパーで勤めており、雇われから自営は責任感が違って大変さを痛感しつつも、「自分たちが植えた植物が健やかに育つことや出荷数が増えて大きくなっていくのは楽しい」とやりがいを感じています。夫である福井さんも、「グラウンドカバーは世間一般では、まだまだ知られていない農作物ですが、興味を持ってもらえるよう、今後も事業を大きく広げていきたい」と目を輝かせました。



作るのが難しいバリエータにも挑戦

花が咲くもの斑入りのものなど、栽培するのが難しい希少品種にもどんどんチャレンジをしていくそう。一方、土や肥料の種類や割合を変えることで、品質はそのままにコスト削減できるよう、地道な努力も惜しみません。



スマートフォンで受注のやりとり

Advice & Planning

グラウンドカバーで就農

グラウンドカバーがどんな植物かあまりピンとこない方も大勢いらっしゃるかと思います。ハウス栽培で馴染みのトマトやいちごなどは異なり、日照時間が少なくても育てることができ、ため、天候不順な兵庫北部にも適した農産物です。新温泉町では栽培に取り組んできた歴史が約30年間あり、福井さんのようにグラウンドカバー専門の農家として頑張っているところが9軒あります。先例が多くフォローのしやすい地域に根ざした品目に加え、契約生産・販売が基本なので安心感があり、これから農業を始めたいと考えている人にもおすすめです。ぜひ一緒に頑張っていきたいですね。

とくにこの地域でハウスを建てる場合は、風や雪などの対策が必要になってきます。業者の紹介はもちろん、ビニールの種類やパイプの太さなどハード面だけでなく、売上げに合う敷地面積などソフト面の両方で、福井さんと同様に丁寧にアドバイスをさせていただきます。



JAたじま 営農生産部 営農企画課 課長 福井 徹



こだわりの栽培方法で作るトマトに 1年待ちでも買いたいというファンも

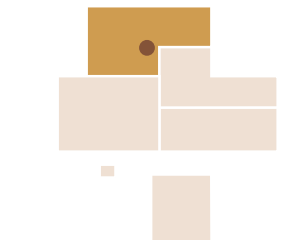
植え付けるまで、トマトの苗は
余分な芽を取るなど手入れをします。



たが、研究の結果、他者と味の差別化を図りにくく感じ、再び栽培品目を変更。試行錯誤を繰り返して、8年前から生産の大半をトマトにシフトしたそうです。栽培品種は、子どもにも人気の「桃太郎ファイト」です。

サラーリマンから農家へ

証券会社で管理職を務めていた坪井さんが農家へ転身したのは2002年のこと。もともと独立志向があつて、自分で何か作る仕事をしたいと考えていた坪井さん。父が兼業農家で、農地、農業用機械が揃っていたことから、初期投資を抑えて始められる点も決め手となり、「坪井農園」をスタートさせました。坪井さんが最初に栽培を手がけたのは、朝来市名産である岩津ねぎとピーマンです。しかし、ピーマンはその年の気象条件などとも関係して、思うような収益が得られませんでした。また、岩津ねぎも相性がよくなかったことから、2年目からは栽培品目を変更。年間繰り返し出荷できる青ねぎにしました。



PROFILE

Tuboi Yoshihisa
坪井 良尚

所在地
兵庫県朝来市山東町三保

経営規模
施設 4,350㎡ 露地 17a

品目
トマト(桃太郎ファイト)、
いちご、たまねぎ苗

就農年月日
平成14年10月1日



土にこだわった栽培方法で差別化

「桃太郎ファイト」はトマトのなかでもメジャーな品種のため競合が多い品種です。しかし坪井さんは、手間がかかってもおいしいトマトを作ろうと考えられたそう。「特にこだわったのは土です。トマトは肥料や水を一気に吸収する性質があるため、微生物の働きにより肥料を分解して、ゆっくり吸収させるよう、バクタモン栽培を取り入れました」と坪井さん。



収穫期の最後に穫れたトマト

従業員を雇い、ハウス拡張を決意

トマト以外の作物も栽培しようと、隙間時間を活用して、手作りで5aのハウスを建てた坪井さん。2015年からそのハウスでいちごを栽培していますが、2人体制の労力を生かしきれないと感じているそうです。

従業員を雇い入れて、冬場も安定的に収益を得るためには、ハウスで栽培する必要があると考えた坪井さんは、本格的にハウスの新設を検討。そして、今回の17aのハウスを新設し、自慢のトマトを増産する決意をされました。「急に生産量が増えるため、今年の収穫期がどうなるのか、うまく仕事が回るか、予測不能です」と不安も口にされますが、その一方、農業の魅力を探ねてみると、「たと思いうように行かない1年でも、計画を見直し次年にリカバリーできる点」と、力強く語る坪井さん。その言葉から、日々変化

のある農業の魅力が無限であることが伝わってきます。



土を耕すときに使う管理機

そこで、独立時は1人でやっていくと決めていた坪井さんでしたが、2013年、県の新規就農インキュベーター事業で従業員を1人を受け入れることになり、労働力が2人になりました。



坪井さんの4人のお子さんをモチーフにしたトマトの箱

Advice & Planning



JAたじま
営農生産部 営農企画課
TAC(担い手担当) 高島茂樹

坪井さんのトマトを待つ方が多くいらっしやいますので、今年は新ハウスからの初出荷が楽しみです。

施設栽培の先駆者を応援

ここ朝来市は、兵庫県の北部、但馬地域に位置し、南部にある淡路島と比べると日照時間が短く、冬は積雪がある地域ということもあって、露地栽培には不利な条件が揃っていると言えます。もともと米農家が多かった土地柄ということもあり、施設栽培の農家としては坪井農園がこの地域の先駆者となります。そういうこともあって、坪井さんがハウスの新設を検討していると知り、農業施設貸与事業をご案内させていただきました。



農薬・化学肥料不使用野菜の個配で ファンを獲得しさらなる収穫量拡大へ

新設のハウスに堆肥を入れる
準備をする梅内さん



梅内稔さんは、大学を出て地元のスーパードに就職していたが「個人で何かやりたい」「おいしいものを食べた」という想いから有機農業、無農薬栽培に興味を持つように。そこで、兵庫県有機農業研究会の研修の募集に応募したところ合格し、現在働く丹波市市島で約1年半、無農薬栽培を学びました。その後、鹿児島県で1年、茨城県の日本農業実践学園で1年さらに学び、市島町に戻って就農。最初は約60aの規模で、少量多品目の栽培を始めたそうです。しかし最初は、直近で学んだ茨城県の土壌や環境と同じイメージで栽培を行ってしまい、土壌や環境が違うことにより、収穫に失敗することもあり、収穫が減ると出荷も減り、量も予測できないため、販売ルートの確保もうまくできなかったといいます。試行錯誤を経て、約3年後くらいから、だんだんと収穫量が安定し、また奥様のサポートにより関東地方を中心に個人宅配先が少しずつ見つかつたことで、事業が軌道に乗り始めたそうです。

無農薬農業の研修に合格

PROFILE

Umeuchi Minoru
梅内 稔

所在地
兵庫県丹波市市島町白毫寺

経営規模
施設 700㎡ 露地 130a

品目
根菜、葉物野菜、水稲、だいずなど

就農年月日
平成23年4月



個配を中心に販路が安定

現在、就農から約5年。自身の育てる野菜に適した土地を求め周囲で移転と田畑の増減を繰り返して、現在は水稲10～20a、野菜100～200aの農地を経営する梅内さん。水稲はもちろん根菜、葉物、果菜、黒だいずなど幅広い品目を季節に合わせて育てています。それらの作物は全て農薬、化学肥料不使用で、販路は、個配、スーパードの地場産コーナーなどでの販売、レストランへの卸などを行っています。なかでも個配では、小さな子供のいる主婦を中心に、梅内さんの「安心でおいしく、価格を抑えた野菜」への支持が厚く、リピーターも多いそう。季節により約10品目を織り交ぜて送っているそうですが、特に葉物野菜は喜ばれるため、「そのニーズに応え、もっと安定して供給していけるようにしていきたい」と考えていたところ、参加する青年農業者組織に県の農業施設貸与事業の案内が。梅内さんは就農5年以内で、認定新規就農者として認定されると補助率が2分の1になるということで申請したところ、これまでの経験と現在の経営、収入拡大の見込みなど着実な計画を承認され、今年、350㎡のビニールハウス2棟をリースすることになりました。



えぐみがなく味わいの濃い梅内さんのほうれんそう



甘味が強く、子どもにも喜ばれているにんじん

ニーズに応じて安定供給を

この2月にビニールハウスが完成し、3月からはほうれんそう、こまつななど葉物野菜の栽培を始める予定だという梅内さん。「個配のお客様に、できるだけずっと自分が育てた野菜を食べてもらえるようにしていきたい」と、夢を語ります。また「無農薬野菜を求める人が、手が届きやすい価格で手に入られる環境にしていきたい」という大きな目標も。そのために、まずはご自身の育てる野菜の品質の向上と、収穫量のさらなる安定を目指して日々研究を重ねておられます。さらに、今後は地域で一緒になって、無農薬野菜を育てられる人をもっと増やしていきたい、という想いも語って下さいました。



耕運に利用しているトラクター

Advice & Planning



兵庫県丹波県民局
丹波農業改良普及センター 経営課
担当課長補佐 松本有一

梅内さんが所属する青年農業者組織「大空の会」に、私共のセンターから、農業施設貸与事業について呼びかけたのが、きっかけです。その際何人か手を挙げられましたが、実際経営試算をしてみると、まだ時期早尚な方もいました。その中で梅内さんは就農5年以内でしたので、補助率が2分の1になる「認定新規就農者」になることができ、また、ハウスを新設するとどう収入が上がるか、よく分かつておられました。そこで私達は認定を受ける申請のために、経営計画の作成のお手伝いさせていただきました。ただ梅内さんは、簿記の資格も持っておられるので、本当に補助的なことしかしていません。無事認定を取られて、今後が本当に楽しみです。梅内さん以外にも、若手農家の方には、「事業を拡大したいが投資が難しい」という方が多くいらっしゃると思いますので、どんどん相談していただきたいです。

経営計画の作成を支援

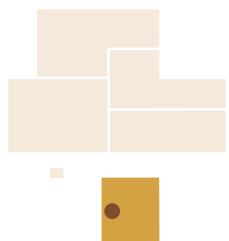


養液土耕栽培で効率良く生産し 地域の名産と伝統の品種を守る

丁寧にトマトを収穫する島本さん



トの生産をすることは難しいため、最初の一年は兵庫県担い手育成総合支援協議会が実施する「新規就農離陸加速モデル推進事業」に参加し、親方農家の元でトマトの生産について多くを学びました。その後、1000平米の土地を借り、ハウス2棟で栽培を始められました。



PROFILE

Shimamoto Kohei
島本 弘平

所在地
兵庫県淡路市尾崎

経営規模
施設 1,700㎡

品目
トマト、きゅうり

就農年月日
平成25年4月1日



グッドな出会いで農業の道へ

トマトの産地として知られている淡路市の旧一宮町尾崎地区で、島本さんがトマトの生産を始めたのは4年前。同地区の知り合いの技術者から「離農する方がいて土地を貸してくれる」という話を聞いたのがきっかけでした。加古川市の農業高校を卒業後、大分や香川など、各地の農家を住み込みで働いていた島本さんが「農業をするなら地元近くで」と思っていた矢先でした。

農家での経験があったとはいえ、いきなり一人でトマトの生産をすることは難

養液土耕栽培で効率よく

就農から2年後、島本さんはさらに農地の利用権を設定し、「農業施設貸与事業」を利用して中古ハウスのリースを受ける事にしました。骨組みだけあったハウスに新たにビニールを張り、630平米のハウスを新設しました。新設したハウスは元田んぼだった土地で、耕す大型機械もなく、生産から出荷まですべて一人で行わないとならない島本さんには、作業負担が少なく効率の良い栽培方法が必須でした。そこで島本さんが取り入れたのは、土の緩衝能力を生かしつつ、灌水と施肥を同時に行う養液土耕栽培です。自動で水と肥料を混ぜ合わせ、チューブから施用する養液土耕栽培システムを使い、作業を軽減。さらに、時間ごとに自動で必要最小限の液肥を与えることで、作物は効率よく水と肥料を吸収できるため、質の向上や増収にもつながります。また、大型機械を購入する必要がなく、初期投資も比較的低コストで、環境にもやさしい栽培方法です。



自動で液肥を作り施用する養液土耕栽培システム

名品種「瑞健」への想い

一宮トマト部会では生産する品種を統一しており、島本さんが栽培するのは古くからある「瑞健」という品種のトマトです。糖度と酸度が高いだけでなく、パランスの取れた濃い味のする「瑞健」は、皮が薄く滑らかな食感を持ち合わせています。尖った果先とオレンジ色がかった色が特徴で、果先にスターマークと呼ばれる白い筋が多いほどおいしいといわれています。栽培時に水を絞れば糖度が上がり、糖度8度を超えるものはJ A 淡路日の出が商標登録している「はるる」というブランドで売り出されます。一度島本さんの元に違う品種のトマトを育ててほしいという依頼があったそうですが、島本さんは頑として断ったそうです。島本さんは「瑞健」にこだわり、わが子のように愛情をたっぷり注いで育てています。

就農後の感想と将来の目標

島本さんに就農した感想を伺うと「たどり着いて未だ山麓」と心境を語る島本さん。別のハウスでは少し違った栽培方法を取り入れ、より良い生産方法を追及しています。「農業はクリエイティブな仕事で、作ったものは必ず人の役に立つので、やりがいを感じています。自分の責任の中で、自分で時間の管理ができるのも性に合っています。」と農業に対する熱い思いを語ります。

今後はより良い質を求めて、技術を確立し、品質を安定させることが目標。近い将来には作型をもう1棟増やし、雇用を創出することを目指し、日々励んでいます。

Advice & Planning

瑞健とトマトの産地の 貴重な担い手

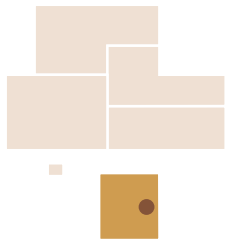
島本さんが就農した淡路市の尾崎地区は古くからトマトの産地として有名です。周囲の地形の影響もあり、冬でも暖房を使わずにトマトを栽培できる淡路島でも最北の地域で、暖房のコストがいらず、環境への負担が少ない生産が可能です。兵庫県内でも淡路市は新規就農者の多い地域ではありますが、それでも年々農業後継者が少なくなってきたのが現状です。尾崎地区の特産である「瑞健」は本場においてトマトですが、実が柔らかいなどの理由から流通には不向きなため、大きな収益を上げるのは難しい品種です。そのため、種を供給するメーカーが、今後「瑞健」の種を供給しなくなるという話もあります。そんな中、島本さんはトマトの産地と「瑞健」の貴重な担い手として頑張りたいと思っています。また農業を一人でやるのはとても大変です。島本さんにも雇用を創出していただけるよう関係機関とともに支えていきたいと思っています。



兵庫県淡路県民局
洲本農林水産振興事務所
農政振興第1課
課長補佐 山口洋



新たな農法を取り入れ 計画的な栽培と販売で安定した 収益を獲得。



PROFILE

Inoue Masatoshi
井上 雅俊

所在地
兵庫県淡路市浦

経営規模
施設 2,640㎡

品目
カーネーション、水稲、直売用野菜

就農年月日
平成16年4月1日



※両親を説得し念願の就農へ

淡路市浦のカーネーション農家に生まれ育った井上雅俊さんは、大学卒業後4年間、サラリーマンをされていました。卒業後に家業を継ごうとしたところ「大変だから」と継がせてもらえなかったそうです。しかし、カーネーション農家への夢はあきらめきれず、サラリーマンをしながら1年かけて関西圏の花屋を一人で約400件回り、今どんな花が売れているかなど、独自に市場調査をされたそうです。その後、再度ご両親に家業を継ぎたい意思を伝えると、その熱心な姿勢が届き、三代目として念願の就農へと至りました。現在は300坪のハウスで、年に2万4000株を栽培。ブライダルなどのイベント需要を主に、パステルカラーのカーネーションを卸しています。

カーネーションが
まっすぐに育つように
芽かき作業をする
井上さん



※画期的な栽培と販売の取り組み

井上さんは野菜農家などとネットワークを作り、栽培や販売に関する様々な勉強を続けています。「花農家は戦略が遅れていると感じました。まだ伸びしろがある」と、計画的かつ新たな栽培や販売方法を多く取り入れていきます。例えば、野菜農家を取り組んでいた天敵による害虫駆除を、花農家では日本初の試みとして、メーカーと共同開発し導入。結果、農薬散布を通常の半分以下に減らすことに成功しました。また、重油を使わないヒートポンプ（電気式加温機）もいち早く取り入れ、コストと環境への負担を軽減しています。



害虫を天敵で退治する環境にもやさしい農法をいち早く導入

※ハウスをもう1棟増やし 事業を拡大

い通り、定期的かつ計画的な収入と栽培を可能にしたそうです。一方で、値段が高騰する母の日などでも定価で買えるということで、生花店側にも喜ばれています。また、井上さんは色・品種別に売れ行きをデータ化し、次期の生産に役立てています。

今年、井上さんは県の農業施設貸与事業を活用してハウスを1棟JA日の出からリースし、栽培面積を倍にする予定です。そこでは収穫時期を半年ずらし、繁忙期と閑散期の作業を分散化。一年を通じて、より安定して供給できるようになるため、年間契約や「予約相対取引」もやりやすくなります。また、季節に合わせた新たな色のカーネーションの栽培も始めます。様々な取り組みを行い、実績を上げている井上さんですが、「きれいな花を咲かす技術は両親に

また、販売面ではカラーをミックスした花の販売を他に先駆けて実施。1ロットに4色を入れて販売し、小さな生花店でも買いやすくなりました。ロット内で色を選べるようにすることで付加価値も付け、単価アップも図っています。さらに、カーネーションに定価を付け、年間契約で定量を販売する「予約相対取引」も始めました。「競りによって値段がつく花は、一本がいくらで売れるか分かり



環境にやさしいヒートポンプの暖房

ません。だから、計画的な収益を算出しにくいんです。『50円で売れた』ではなく、『50円で売った』にしたい」と井上さん。「予約相対取引」はその狙



1株から7～12回の出荷ができるカーネーション本収穫

月後をイメージできる技は本当にすごいと思います」と謙虚な姿勢も忘れません。今後はネット販売にも取り組み、「予約相対取引」の割合を増やしていく予定です。将来的には、10aで生計を立てられる経営を目指しています。

Advice & Planning



兵庫県淡路県民局
洲本農林水産振興事務所
農政振興第1課
課長補佐 山口 洋

カーネーション産業を牽引するリーダー的存在
兵庫県は全国でも有数の生産量を誇るカーネーションの産地です。特に淡路島はカーネーションの栽培が盛んで、約80年の歴史があります。しかし、カーネーションを育てるためには、立派なハウスなど設備投資がかかるため、新規参入者が取り組むにはなかなか難しい作物でもあります。また、近年では安価な輸入花の流通も増え続け、日本の花農家にも大きな影響を与えています。そんな中、研究熱心な井上さんは様々な栽培や販売方法を自ら見出して取り組み、収益を上げていっておられる成功者です。また、カーネーション若手連絡会の中心人物として活躍し、淡路島だけでなく兵庫県のカーネーションを引っ張っていく貴重な存在でもあります。今後、淡路島のカーネーション産業の発展のためにも、引き続き行政や農協の支援を続けていくとともに、井上さんには大きな期待も寄せています。



安定的な生産と雇用を生み出す 将来を見据えたモデル事業

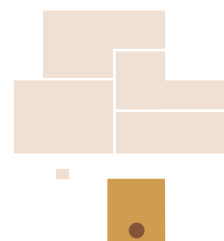
防草シートを敷き、使わなくなった田んぼを
保護する若者たち。就農を目標に
アグリアイランドで農業のノウハウを学ぶ



また、未来の農業を担う若者を育成するのもアグリアイランドの主な事業の一つ。一時的な労働ではなく、就農を目標とする若者を集め、農業の教育をはじめ、農地提供や農機具のリースなどを実施しています。

たまねぎやレタス、はくさいなどが兵庫県内一の生産量を誇る淡路島。しかし人手不足や農家の高齢化が問題となっています。(株)アグリアイランドはそんな農家を助ける「援農」活動を目的に平成24年に設立されました。「農家を支援したい!」と立ち上がった、JAあわじ島の選果場で働いていた有志が集まった「援農あわじ島が前身で、その意思を受け継ぎ、収穫の手伝い、病気や事故で働けなくなった農家の代行、使わなくなった田畑での生産活動や管理など、業務は多岐にわたります。

農家支援と若手の育成を担う



PROFILE

(株)アグリアイランド

所在地
兵庫県南あわじ市賀集
経営規模
施設 2,200㎡
品目
トマト
設立年月日
平成24年10月1日



ダッチライト型ハウスでの試み

南あわじ市で生産している農作物はたまねぎなどの露地野菜が主。しかし、収穫時期の集中、自然災害による打撃を受けやすく安定した収入と雇用が見込めないなどの問題があり、後継者がなかなか確保できないのが現状です。また、淡路島の過疎化と、厳しい自然環境下でたまねぎや白菜などの重い露地野菜を育てる重労働が拍車をかけています。そんな問題に立ち向かうべく、(株)アグリアイランドはJAあわじ島が建設した、オランダ型の軒高ダッチライト型ハウスを借り受け、安定した収入と雇用を生み出す試みを、2016年4月から実施予定です。



換気することにより夏でも暑くなりすぎない

生産性を実証し後継者を生む

ダッチライト型ハウスで年間40tの生産目標が達成されると、安定した収益とシフトを組める雇用が成立します。また、厳しい自然環境下の作業や重労働を減らし、「儲かる農業」を実証することにより、若者の就農意欲を掻き立て、後継者を創出するのにも目的です。さらに、近年では人手不足の対策として、中国、ベトナムなど東南アジア諸国から外国人技能研修士を迎え、技能実習にも取り組んでいます。

今年の4月には農畜水産物直売所の「美菜恋来屋」で、トマトをはじめとする野菜を使ったスムージーのショップも展開予定。割れてしまったものや形のいびつなものなど、流通に不向きな野菜の利用にも取り組み始めます。

援農活動では農家と若者との交流もあり、(株)アグリアイランドは農家を支えながら、新しい農業を見出し、未来へとつなぐ活動を行っています。



ダッチライト型ハウスで栽培する大玉トマトの「ハウス桃太郎」

栽培予定。1本の株から多数収穫できる26〜27段の長期長段取り方式を採用し、需要の多い「ハウス桃太郎」を生産します。10aあたり一般的には年間25tの収穫量の中、40tの収穫という高い目標を掲げています。



産地直売所の「美菜恋来屋」

Advice & Planning



JAあわじ島
農業生産部農業企画課
課長 三木 浩介

地域の問題を解決する対策を
淡路島の特産である野菜は天候に影響を受けやすい露地野菜が中心です。また、天候に影響を受けにくいハウス栽培でも、台風の多い淡路島では、ハウスが吹き飛ばされるなどの被害があり、安定した生産が定着しないという問題がありました。JAとしても打開策を研究していた時、(株)アグリアイランドの土居チーフから「ハウス栽培をしたい」という要望があり、一緒にハウスの視察研修を行いました。その結果、全天候型の軒高ダッチライト式ハウスを採用することになったのです。今回タイミングよく県の補助金制度と時期がマッチングしたこともあり、天候に左右されない農業を示すモデル事業として建設に至りました。

作物は需要や収益性を考え、年中収穫できるトマトを栽培します。このモデル事業で目標量の収穫できると、計画的な農作業が行えるようになります。将来的には露地野菜とハウス栽培の両方を行い、安定した収益と雇用を生み出すのが目標です。今後(株)アグリアイランドの活動を支援するとともに、期待しています。

新聞記事



2015.9.26 日本農業新聞



神戸新聞(西播版)2015.9.8



2016.1.10 日本農業新聞



2015.12.19 日本農業新聞

関連施策・資金

認定新規就農者制度

■対 象 者：新たに農業経営を営もうとする

①青年(18歳以上45歳未満)または②知識・技能を有する者(65歳未満)等
就農前及び就農後5年まで申請可能。

■認定主体：営農地の市町

■自らの農業経営の目標等を記した「青年等就農計画」の認定を市町から受けると「認定新規就農者」になることができます。

(注)「就農計画」の作成にあたっては、就農予定地の農業改良普及センター(地域就農支援センター事務局)の指導・助言を受け、実現が可能な計画を作成したうえで、市町へ認定申請をおこなってください。

■問い合わせ先：就農地のある市町の農業担い手担当部署

農業施設貸与事業支援資金

■貸付対象者：農業施設貸与事業の利用者(JAの組合員)

■概要

貸 付 主 体	兵庫県信用農業協同組合連合会(J Aバンク兵庫信連)
資 金 の 内 容	農業施設貸与事業で支払うリース料(一括前払い)相当額を無利息で融資し、保証機関へ支払う保証料を全額助成
利 息	無利息
貸 付 限 度 額	兵庫県農業信用基金協会の保証額の範囲内、かつ所要額以内 (当初融資金額100万円以上)
償還(据置)期間	最長15年間とし、リース契約期間以内の期間とします。但し、施設・機械等のリース期間は耐用年数以内とします。(据置なし)
担 保 等	無担保・兵庫県農業信用基金協会の保証を利用

■問い合わせ先：兵庫県信用農業協同組合連合会 融資統括部 TEL.078-333-5771

青年等就農資金

■貸付対象者：認定新規就農者

■概要

貸 付 主 体	(株)日本政策金融公庫
資 金 の 内 容	・施設、機械等の取得等(農地の取得は除く) ・長期運転資金(農業施設貸与事業に係るリース料一括前払い費用を含む)
利 息	無利息
貸 付 限 度 額	3,700万円(特認1億円)
償還(据置)期間	12年以内(うち据置5年以内)
担 保 等	実質的な無担保・無保証

■問い合わせ先：(株)日本政策金融公庫神戸支店(農林水産事業) TEL.078-362-8451